

東京経済大学報

2014年度 第47巻 第2号



GOOD DESIGN
AWARD 2014

図書館



5号館

Gマークの東経大

東京経済大学 キャンパス計画 図書館・5号館が2014年度グッドデザイン賞を受賞しました。

115年目の新春

謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様には日頃から本学へのご協力に感謝を申し上げます。

昨年は大学にとって記念の年となりました。太平洋戦争の戦禍により、赤坂葵町から現在地に移ったため、100年以上前の創立時を偲ぶものがなく、学生に伝統を目で伝えることができませんでした。

10月18日には晴天にも恵まれ、卒業生、関係者多数のご臨席のもと、「大倉喜八郎 進一層館」（史料展示コーナー、葵友会・父母の会の談話室等の多目的ホール）竣工式と「大倉翁の銅像」除幕式・贈呈式を無事終了することができました。これは、「現図書館改修計画協賛募金」に卒業生、教職員、葵友会、父母の会、関係会社等、各方面から多額のご寄付をいただき、成し遂げることができました。また、卒業生有志の方々の熱意による大倉翁の銅像を贈呈いただき、大学としては建学の理念を具現する、またとないもので感謝を申し上げますとともに大切に顕彰してまいります。

私立大学は、創立者の建学の理念を大切に校風を作り上げています。これを機会に、大学と法人ともに原点に返って学生達に大倉翁の「進一層・責任と信用」の考えを伝えたいと思います。

国分寺キャンパスの武蔵野の緑と風の回廊をイメージした第一期整備計画は実質的に終了し、また3月末には、武蔵村山キャンパスについても整備計画が完了する予定で順調に進んでおります。教育施設・スポーツ施設が飛躍的に充実します。

今後とも、法人としては学生達が豊かなキャンパス生活を送れるように環境整備に力を入れていきます。

本年も皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

学校法人 東京経済大学 理事長 岩本 繁



新しい年の幕開け

皆様、あけましておめでとうございます。

4月に学長に就任して以来、無我夢中でやってきました。今年は、2014年に撒いた種を大きく育て、大学の未来につながっていくように、教職員共々ベストを尽くしていきたいと考えております。

2012年4月に5号館、14年4月に新図書館がオープンしました。10月には、「大倉喜八郎 進一層館」が完成し、大倉喜八郎の銅像が建立されました。ガラス張りの明るい教室棟と図書館を得たことによって、キャンパスの雰囲気も一新されたのではないのでしょうか。さらに、5号館と新図書館は、日本デザイン振興会が主催する2014年度の「グッドデザイン賞」を受賞しております。これも、卒業生の皆様方の多大なご支援のおかげと感謝しております。

このようなハード（施設）面での充実を受けて、次の課題は、言うまでもなくソフト面での充実、つまりは教学改革ということになります。教学改革にどのように取り組んでいくのかにつきましては、2014年9月発行の『東京経済大学報』（第47巻第1号）に「教学改革への取り組み」を掲載いたしました。ご覧になっていただければ幸いです。4月に大学のホームページ上で「学長ブログ 進一層だより」をスタートさせました。わたしの目線で、参加した行事や出来事に関するコメントを載せております。卒業生の方から「読んでいます」と、声をかけられることがあるのですが、素直にうれしい気持ちになります。わたしなりの「東京経済大学案内」でもありますので、大学の近況を身近なものとして感じ取っていただく媒体になればと思っております。

本年も、皆様方のご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

東京経済大学 学長 堺 憲一



理事長・学長

新年のあいさつ

大倉喜八郎翁銅像 除幕式



左から瀧本良吉銅像建設準備委員会委員長、加治章前葵友会会長、後藤鉄四郎葵友会会長、岩本繁理事長、堺憲一学長、松沢和治父母の会副会長

東京経済大学は、ことし3月に役目を終えた旧図書館を改修し、「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」として、リニューアルオープンさせ、10月18日(土)に竣工式をとり行いました。旧図書館の改修にあたっては卒業生や法人の皆様より協賛を受けました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

当日は、大倉喜八郎銅像の除幕も行

われ、建物正面には、台座と立像あわせて約4メートルの大倉喜八郎像が目見えしました。銅像の原型作成は田淵吉信氏、題字の揮毫は村山臥龍氏です。銅像の製作過程は本学ホームページ「大倉喜八郎銅像製作記録」でご覧いただけます(本学トップページ東経大の概要から、大倉喜八郎、大倉喜八郎銅像製作記録の順にクリックして下さい)。新装された「進一層館」ホールでは、村上勝彦名誉教授による「大倉喜八郎の人生観と進一層」をテーマとする講演会が開催され、約300名の参加者が熱心に耳を傾けました。

「進一層館」は東京経済大学の前身、大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎と、東京経済大学の建学の精神を冠した建物です。式典で堺憲一学長は「今日という日は、本学にとって忘れられない記念の日になるでしょう。これから大倉喜八郎像が本学の宝物となつて、長きにわたって学生たちを見守ることになります」と挨拶しました。

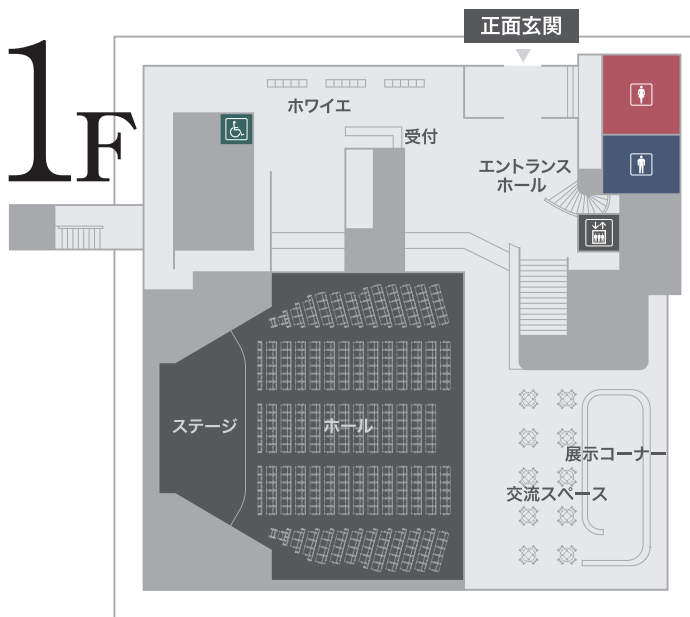
館内には、約320名収容できる多目的ホールや史料展示コーナー、校友センター、キャリア・サポートコース事務室などが配置され、学生・卒業生・教職員などの大学関係者に、多くの場面で活用されることが期待されています。

これが 「大倉喜八郎 進一層館 Forward Hall」 の全貌だ!

旧図書館を改修し完成した「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」の1階には、約320人を収容できる多目的ホールと東京経済大学や大倉喜八郎にまつわる史料展示コーナーが新設されました。

地下1階には、校友センターの事務室や卒業生らの懇談スペース、それに50人ほどの懇親会が可能な会議室、地下2階には資格取得支援を行うCSC (キャリア・サポートコース) の事務室と専用の教室が設置され、学生と卒業生がともに大倉喜八郎を顕彰できる設計となっています。

図書館建築のバイオニアとも呼ばれ、30以上の図書館の設計に関わった鬼頭



史料展示コーナーでは校史及び大倉喜八郎の功績が紹介される (12~14ページ参照)



交流スペースとホール

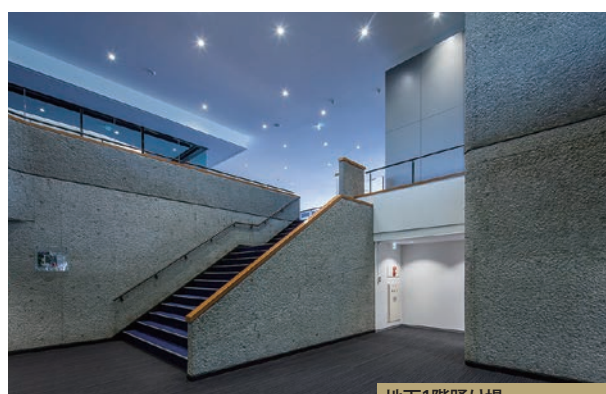


まつしたなおき 左から松下尚輝さん（アルト・オークラウロ）、小湊昭尚さん（オークラウロ）、愛川聡さん（ギター）

梓氏が設計した東京経済大学旧図書館は1968年に完成しました。館内には1本も柱がないのが特徴で、大学図書館としては、初めての日本建築学会賞を受賞するなど、建設当時、画期的な図書館であると評価されました。

今回の改修は、旧図書館の開放的な空間をそのまま活かす形で進められました。

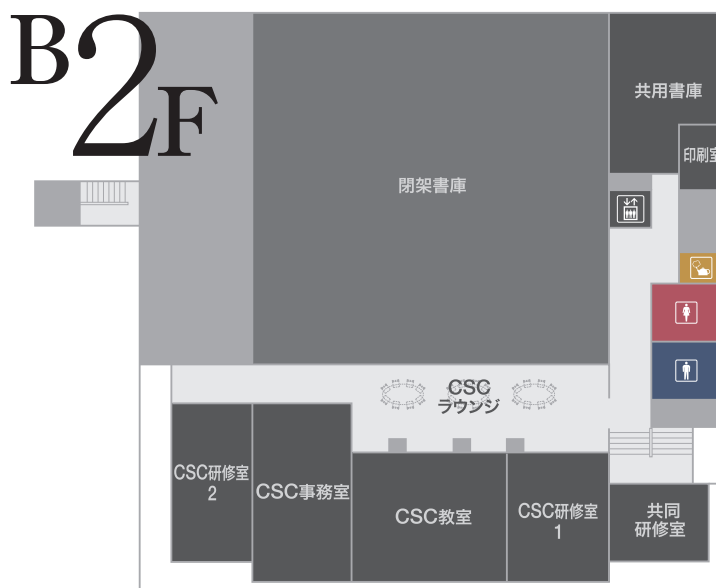
11月29日(土)には「大倉喜八郎 進一層館」ホール、初の音楽コンサートとして大倉学芸振興会主催の芸術公演「バロンが愛した縦笛―和と洋が溶け合う音―オークラウロ・コンサート」が開催されました。オークラウロは喜八郎の息子・喜七郎が日本の尺八と西洋のモダン・フルートを融合させ、新しく考案した楽器です。当日はコンサートに先立ち、「怪物商人大倉喜八郎伝」の著者である江上剛氏の講演会が行われました。



地下1階踊り場



校友センターラウンジ



CSCラウンジ

大倉喜八郎の 進一層と企業家精神 近代産業導入に 果たした役割

村上勝彦

東京経済大学名誉教授
東京経済大学元学長・前理事長



初めて近代世界の 一端にふれる

近代産業導入に果たした大倉喜八郎（以下、喜八郎と略）の役割は大きい。彼みずからが進一層と名づけた、今日の言葉でいえばベンチャー精神の賜物であり、旺盛な企業家精神で膨大な数の企業を設立し、多くの近代産業の導入に関わった。喜八郎の起業の足跡を日本経済発展史に関わらせて見てみたい。

近代産業のほとんどは開港と明治維新を機に欧米から導入され始めた。したが

って近代欧米を知ることが起点となる。

青年喜八郎にとっての最大の転機は、乾物・魚屋から銃砲商への商売替え、長期欧米視察行の二つであった。銃砲の商いは外国貿易であること、横浜居留地の外商と接触し、外国事情をしつかりと把握して商品を仕入れねばならない。売り込み先は幕府や諸藩で、直接の交渉相手はそれらの銃砲師範である。欧米先進技術と外国語を学ぶ洋学は、とりわけ砲術と医術の分野で先行したので、砲術師範は当時であって最も開明的な人物であった。銃砲商となった喜八郎は外商と砲術師範

を通じて初めて近代世界の一端にふれることができた。

その端的な例をあげよう。進学校で有名な開成学園の創立協力者の一人として喜八郎の名があげられている。それはなぜか。同校創立者の佐野鼎は加賀藩の銃砲師範であり、幕府派遣の遣外使節団に二度も加わり、アメリカでは新聞種になるほど各所を熱心に見聞し、とくにニューヨークの聾啞学校で感銘をうけ、後の学校創立を思いついた。「社中」という名の創立協力者には、喜八郎のほか加賀藩主の前田慶寧、西村勝三などもある。

西村は著名な啓蒙思想家として明治六社同人となった西村茂樹の弟で、若くして佐久間象山に西洋砲術を学び、喜八郎よりもはるかに大規模な銃砲商いをしていった。維新後は喜八郎と甲乙つけがたいベンチャー精神を発揮し、洋靴・皮革・耐火レンガなどの新産業を次々に開拓した。佐野と喜八郎・西村は銃砲師範と銃砲商の関係である。

その社中の一員ではないが、陶磁器の輸出・製造の先駆者、ノリタケの元祖、森村学園の創立者である森村市左衛門もかつては喜八郎と親しい銃砲商であった。砲術師範では、一昨年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の八重の兄、山本覚馬は会津藩の砲術師範であり、維新後に新島襄とともに同志社を創立した。明治政府

の最も開明的な指導者で早稲田大学の創立者、大隈重信の父も佐賀藩の砲術師範である。

毛織物から 近代産業に着目

扱う輸入品は銃砲に限る必要はない。

喜八郎は銃砲の次に、当時羅紗と呼ばれた毛織物に着目した。毛織物は広く需要されたためイギリス産業革命を準備する市場基盤となったが、日本に羊がいなかったように日本にはなく、輸入によらねばならなかった。喜八郎は綿布よりも格段に暖かく雨水を通しにくい毛織物の潜在的需要に着目した。わずか数年にすぎない銃砲商時代の末期に、毛織物販売店さらに洋服縫製店を開き、テーラーとなった。喜八郎が渋沢栄一とともに東京商法会議所設立を申請したときの肩書きは西洋織物商である。毛織物納入先の明治政府の役人からその製造法を問われ返答に窮したこともあり、毛織物製造への関心を高めていった。

青年喜八郎の第二の転機は欧米視察行である。初めて近代世界の一端にふれた喜八郎は、持ち前の進一層精神を発揮して欧米産業社会を見聞し新たな活路を求めるため、民間人初の長期欧米視察に出た。一年二カ月の外遊中、世界経済の中

心地、ロンドンに集中的に滞在したが、具体的な目的の一つは毛織物工場の視察と安価なその製造機械の購入であった。パリに赴いたとき、ちょうど滞在中の岩倉使節団の副使、大久保利通と木戸孝允にホテルに呼び出され、「お前は何用で来たのか」と問われ、毛織物業導入のためと答えた。だが大久保から、「その新産業はまずは政府に任せてくれ、軌道に乗ったら払い下げる」といわれ、しぶしぶ承諾せざるを得なかった。

直貿易による 商権の自立を

帰国直後の一八七三（明治六）年、貿易・土木建築・用達を主業務とする大倉組商会（以下、大倉組と略）を設立した。後の大倉財閥の基である。当時の貿易とは、横浜などの居留地で外商に日本産品を売り、彼らから舶来品を買うことで、外国との直接のやり取りは行われない。喜八郎は欧米視察を通じて、この方式は外商に有利、日本商人に極めて不利だと知った。会社の基礎はまだ不十分だったが、早くも大倉組設立の翌年にロンドンに小支店を設け、直貿易と呼ばれる外国との直接取引を開始した。日本企業で初めての海外支店という榮譽をになうが、自社だけの利益にとどまらない。明治日

本の大きな課題は幕末不平等条約の改正であったが、直貿易拡大によって、自国商人が実際に取引をになう「商権」の自立も経済自立にとって不可欠であった。商権自立は条約改正とほぼ同じ明治末期に達成され、その先駆けを大倉組ロンドン支店がなった。

同支店はたとえば創設時の東京府瓦斯局で用いる機械・管類をフランスから、喜八郎が断念させられた毛織の官営千住製絨所で用いる原料羊毛をオーストリアから、毛織物・金属や紡績機など各種機械をイギリスから日本に送り、日本からは生糸・茶などを取り寄せ、近代産業導入と外貨獲得に寄与した。現在の東京ガス（瓦斯）会社は東京府瓦斯局を継承したもので、喜八郎は渋沢らとともに同社を設立した。

他方アジアでは、大倉組はロンドン支店設置の二年後に日本企業初となる朝鮮支店を釜山に設け、中国では三井物産会社に数年後れて上海に、さらに天津に支店を設けて近隣アジアとの貿易を展開した。朝鮮・中国だけではなく、インドには紅茶用木箱を製造・輸出し、そのため伊豆天城の御料林の払い下げをうけて製材業に着手した。この経験は後に大井川上流の井川山林の取得、製材さらには製紙業へと発展する基となり、現在の特種東海製紙会社となっている。早々とトル

コ・ペルシャへも社員を派遣し、日本物産の試売を行うなど積極的だった。

喜八郎と大倉組は一八八〇年代に日本茶輸出で大きな役割を果たしている。ロシア・オーストラリアなどへの紅茶輸出もあるが、主力はアメリカへの緑茶輸出である。当時の日本貿易にとっての大問題は、茶をはじめとする日本産品の粗製乱造、取り扱う商人の詐欺的商法が広く行われていたことである。現在の途上国からの輸出品に時には見られる問題である。喜八郎は指導力を買われて茶業中央組合の幹事長に選ばれ、偽茶・粗悪茶の取り締まりに努力していたが、ついにアメリカ議会に不正茶輸入禁止令が上程され、日本茶輸出が困難に直面した。法令を撤回させ、日本茶の信用回復と販路拡大のため、組合は喜八郎をアメリカに派遣した。喜八郎の二度目の欧米視察行となる。

近代的商法と インフラの整備

再度の視察行で欧米の近代的な商法と諸制度をより深く認識した喜八郎は、帰国直後に自分の意見を広く伝えるべく『貿易意見書』を公にしている。日本の目指す文明開化、欧米の強さの基は富国にあること、生産と輸出を盛大にするこ

とが必要だが、わが国の商人は海外事情に疎く、国内に閉じこもりがちで、その社会的地位は低く、なかにはそれに甘んじて詐欺破廉恥をいとわない者さえいる。そのため欧風の仕組みによる商法改良が緊急の課題だとした。その先に近代的商法をになう人材の育成、商業教育を展望するものもあった。喜八郎はまず貿易協会を設立し貿易振興を図った。

この欧米視察の数年前、喜八郎は渋沢らとともに商工金融業者の協力と社会的地位向上のため、喜八郎の築地の居宅で準備会合を行いつつ、日本初の経済人組織である東京商法会議所を設立している。喜八郎は同会議所の外国貿易事務委員となり、後に副会頭、全国商業会議所連合会の会頭となり、財界世話役の活動も増えていった。喜八郎は日本近代経済の父とも称された渋沢と公私ともに親しい。両人の故郷を出る動機の一つがともに武士の横暴さを経験したことであり、喜八郎が維新後も「武断政治の余弊いまだ去らず」と述懐したように、士農工商制度は官尊民卑と形を変え、相変わらず商売は賤しめられ、商人ら「民」の社会的地位は低かった。両人は「官尊民卑の打破」を唱え、商人の地位向上のために経済・社会活動で奮闘した盟友であった。

近代産業の発展にはインフラ整備も欠かせない。大倉組の土木建築業の役割は

この点で大きい。陸上輸送の要となる鉄道では、日本初の鉄道である新橋・横浜間で新橋駅舎建設の一部を受け負ったのを皮切りに、東海道線をはじめ主要な鉄道建設に従事し、自らも幾つかの私鉄会社設立に参加し、大規模な九州鉄道会社では第二位の大株主に一時期なっている。海運では独占主義の三菱に対抗して共同運輸会社の設立に参加し、後には東洋汽船会社の経営に深く関わった。輸送などを支えるため、東京湾築港、利根川・信濃川などの改修、各所の道路・橋などの建設に従事し、重要な各種工場・軍工廠・学校・病院や鹿鳴館・帝国ホテル・歌舞伎座などの名だたる建物を造った。大倉の土木建築部門は同業界にあつて企業組織が最も近代的で、後に日本初の地下鉄、浅草・上野間を竣工させたような最高の技術陣を擁し、現在の大成建設会社を引き継がれている。

エネルギー産業も大切なインフラである。先述の東京瓦斯会社設立の二年前、喜八郎は現在の東京電力会社の基となる東京電燈会社設立の中心的役割をになった。設立事務所は大倉組本社に置かれ、その二階から電線を引いて銀座街頭で日本初の電燈をともし、会社設立にむけたデモンストレーションを行った。毎夜大勢の見物人がつめかけ、文明開化を象徴する錦絵としてその風景が描かれ、そこ

には太陽・月に次いで明るいと書かれている。その二十数年後、現在の関西電力会社の一つの基となる宇治川電力会社を関西で設立した。電力は電燈用から動力源としての比重を高め、近代産業発展の基盤となった。大倉組はその電気機械を輸入し、発電所・ダム建設で大きな役割になったが、象徴的な出来事として、大倉組と三井物産がそれぞれ異なる周波数の発電機を輸入したため、現在も日本の東西で周波数が異なるという厄介な問題もある。

意欲的な起業活動

これまで述べてきた商業・商人の意味は、当時にあつて商品売買・流通業だけでなく、鉱工業さらには金融業なども含む広いものであった。近代産業の確立をもたらず産業革命は、日本では一八八〇年代から一九〇〇年代、明治中期から末期にかけて遂行され、そのなかで鉱工業部門は重要な位置を占めた。繊維などの軽工業から金属・機械などの重工業へと発展し、同時に石炭などの鉱業もそれを支えた。もちろん先述の貿易・商業・土木建築・運輸・エネルギーや金融業などの役割も大きい。

喜八郎が最初に着目した毛織物業は国営に譲らざるを得なかったもので、より小

さな規模だが民間紡糸・毛織物業の設立・経営に関わり、彼の死去する前年には合同毛織会社へと統合された。麻織物業でも企業設立に参画し、統合されて帝国製麻会社、現在の帝国繊維会社に発展した。産業革命の華とされる綿紡績業では、最も近代的な工場設備・技術を擁した大阪紡績会社の設立発起人の一人となっている。後の大正期には、喜八郎の郷里近辺で作られる繭を買い取り、地元の雇用機会を生み出すため、新潟県新発田に株式会社大倉製糸工場を設立した。このように毛・麻・綿・絹の近代繊維産業の導入にすべて関わっていた。

繊維のほかに軽工業には食料品・材木・紙・皮革・靴などの製造業もある。近代産業の推進者が国から民間へと移る転機は、産業革命の開始期に行われた国営工場・鉱山の払い下げであつたが、喜八郎はこのときなぜか新産業のビール工場を希望した。三井・三菱・住友などはこれまで経験ある鉱山などを願い出て、その豊かな利益源を後の財閥形成の基盤としたのに比し、喜八郎の行動はかなり特異である。はつきりした理由は不明だが、喜八郎の旺盛なベンチャー精神を表していることは事実だろう。しかし案の定、一年目は赤字決算となり、大倉単独から渋沢・浅野総一郎との共同経営に移り、現在のサッポロビール会社に発展した。

もちろん鉱山業でも、国内では後に入山採炭会社の常磐炭鉱、大倉鉱業会社の北海道・山口・福岡にある茂尻・大浜・西戸崎の諸炭鉱を経営している。

食料油の需要増大をうけて日本最大の近代製油工場を備えた日清豆粕製造会社を設立し、それが現在の日清オイロ会社となった。製材では先述の大井川上流での活動より前に、大倉組社員で秘書だった井坂直幹を助け、東洋一となる秋田木材会社の設立に参加した。軍靴需要から始まった洋靴とその原料皮革を作る仕事への社会的差別観は極めて強かったが、喜八郎は職業に貴賤はないと断言し、早くから製革・製靴業に関わり、先述の西村勝三と協力して現在の株式会社ニッピ、リーガルコーポレーションへと発展させた。西村の工場開業日が現在、靴の記念日となっている。

重工業では「産業の米」といわれた鉄鋼業が重要で、喜八郎は次に述べるように中国東北部の満洲で大規模な製鉄所を設立しており、国内では大島製鋼所などを共同設立した。機械産業では、とくに鉄道建設との関わりで機関車・車両を作る汽車製造会社の出資社員となり、また現在まで続く日本車両製造会社、月島機械会社の経営に大きく関わり、大正期には新技術である無線事業に取り組んで現在の日本無線会社に発展させた。

ところで金融業では、周知のように金利差で稼ぐような商売は自分には向かないとして銀行をいっさい作らなかったが、貿易・商業などに随伴する損保事業には関わり、後に大倉火災海上保険会社を設立し、現在のあいおいニッセイ同和損保会社に統合されている。

海外事業の積極的展開

いち早く海外に目をむけ、つねに世界経済の趨勢に注意していた喜八郎は、進一層精神を発揮して海外事業も積極的に展開した。大倉組はアジア各地で支店を拠点に貿易を拡大し、鉄道や日本公使館などの建物を建設していった。民間資本の蓄積によって、産業革命の終わりにあつた日本企業の海外投資が始まったが、対中国で先陣を切ったのは大倉組である。日本初の対中国投資は、アジア最初の製鉄所、漢陽鉄廠局^{てんやうてつさん}に対して大倉組が一九〇三年に行った借款^{しやくかん}供与である。三井物産や日本政府筋に先立っている。翌年に満洲での炭鉱経営に着手し、中国政府との交渉をへた八年後に民間初の日中合弁会社、本溪湖煤鉄公司^{ほんせいこばい}を設立した。その製品は鉄鋼不足の日本に輸出され近代産業の基盤を強めた。同公司是現在も本溪鋼鉄公司として中国で活躍している。

同時に対中国投資機関である東亜興業会社を三井などとともに設立し、中国の鉄道・有線電信・電燈・水力電気・製糖・不動産などの諸部門に資金を供給した。大倉単独の投資も多く、綿紡績・製材・製紙・製革・製油・馬車鉄道・電車・農場・不動産など様々な分野に及んでいる。対中国投資額では大倉と三井が三菱・住友・安田などに比して頭抜けて多いが、大倉の特徴は現地での事業展開を意味する直接投資の比重が他企業に比して極めて高いことであつた。

近代日本の実業家のなかで喜八郎ほど中国を度々訪れ、幅広い人的ネットワークを築いた人物は他にいない。政治家・実業家だけでなく学者・芸術家にまで及び、政治家は相互に対立・戦争している諸党派にわたっている。喜八郎は喜寿を祝う書を孫文・袁世凱^{えんせいがい}などから貰っているが、孫文の場合は明らかに辛亥革命^{しんがい}に際し臨時革命政府に三〇〇万円の資金融資をした返礼であつた。その革命準備の組織、中国同盟会が喜八郎の赤坂本邸内で結成されたことは三〇数年前に初めて明らかになった事実である。米寿のときは、満洲の張作霖^{ちやうさくりん}、北京の徐世昌^{じよせいちやう}・段祺瑞^{きんずい}、国民党の汪兆銘^{わうちやうめい}・張繼^{ちやうけい}・廖仲愷^{りやうちやうがい}ら八四名が祝いの書の発起人になり、実業家の張謇^{ちやうけん}、学者の梁啓超^{りやうけいしやう}なども名を連ねていた。その四年後の喜八

郎の葬儀に際しては、張学良、西北地域の實力者である馮玉祥^{ふうぎよきやう}、国民党の蒋介石らも新たに加わって九一本の弔旗が中国から贈られている。喜八郎は京劇の華とうたわれた梅蘭芳^{めいらんほう}の舞いを北京で見ても感激し、得意の狂歌を詠んで贈り、帝国劇場会長として梅を日本に二度招いた。その公演には与謝野晶子・芥川龍之介・谷崎潤一郎らがつめかけている。

アジアへの関心、教育への情熱

喜八郎は二度目の欧米視察に出る数年前、興亜会^{こうあ}の結成に参加している。欧米に対抗してアジア諸国の団結と提携を図り、アジアの振興ひいては欧米との対等化を目指すとした初期アジア主義的な性格の会で、日本・中国・朝鮮を主とし、ペルシャ・トルコの人士も参加していた。アジア諸国間のコミュニケーション、つまり人と物との交流を盛んにし、言語の相互教育、アジア諸国間の交易、さらには共同経営を目指すとした。当時にあつては珍しく、会の役員は総て選挙によって選ばれるなかで、喜八郎は議員という役職に就いている。二度目の欧米視察で、近代的商法を見習い、日本に早急に導入すべきとの認識を強めた一方、欧米諸国はアジア市場を制覇すべく激しく競争し、

アジア諸地域の植民地化が急激に進行している厳しい現実をも認識した。このようなアジア主義的な発想が喜八郎のアジア事業の背景にあつたものと思われる。

近代的商法のためには近代的商業教育が不可欠だと考えた。すでに最初の欧米視察から帰国した二年後、現在の一橋大学の前身、日本初の商業教育機関である商法講習所の創立に際し、喜八郎は渋沢とともに東京会議所を代表して東京府資金を提供する契約を創立者の森有礼^{ありのり}と締結している。明治政府は商業教育を当事者が行うべきものとしてなおざりにしたので、商法講習所のその後の維持・運営に苦勞する渋沢を喜八郎は大いに助けた。二度目の欧州視察時には条約改正と内地雑居は尚早であるとした喜八郎だが、その十数年後には意見を変えた。すでに欧風の仕組みが導入され、産業革命の進行で日本経済が力をつけつつある現実を背景に、内地雑居によって外資導入、さらには欧米資本との共同経営をも提唱するにいたつた。しかしなお日本商人の力は弱いので、国内進出する外国商人と互角に勝負し、さらに海外に出て十分に活動できる人材養成機関を早急に作らねばならないとし、巨額の私財を投じて東京経済大学の前身である大倉商業学校、さらに大阪大倉商業学校、韓国ソウルに善隣商業学校を創立したのである。【三六】

014年11月17日に、7～9月期の国内総生産の実質成長率が年率換算で1・6%減となり、2四半期続けてマイナス成長になったと発表され、大きな衝撃を生んだ。翌日の18日の記者会見で、安倍首相は2015年10月に予定されていた消費税の税率10%への再引き上げを1年半先送りし、衆議院の解散に踏み切ることを表明した。

記者会見の席で安倍首相は次のように述べた。

アベノミクスは消費、企業収益、名目賃金、有効求人倍率を増加させ、失業率、倒産件数を減少させてきたが、消費税増税の影響で負の影響が出た。については消費税法付則18条に従って、消費税の10%への再引き上げについては延期すべきだと考えるが、そのことについては国民の信を問いたい。

この増税延期に対する新聞等メディアの典型的反応は次のようなものであった。

「私たち朝日新聞論説委員室も、首相に負けないくらい悩んだ。個人消費の低調さは気がかりだ。でも、社会保障を安定させ、財政再建を少しでも進めるには増税が必要だ。所得の少ない人への対策を厚くしつつ、予定通りに増税すべきだと主張した。」

〔社説余滴 税の『重い決断』とは〕『朝日新聞』11月25日

「国の予算の歳出を減らす努力がほとんどみられないなか、増税も先送りする。財政

と日本財政

岡本英男 経済学部長
経済学教授



健全化の取り組みが足踏みするのは残念だ。日本経済にとつての最大の課題は、持続的な経済成長と財政再建を両立させることだ。険しい道だが、この2つを同時に追求せず、日本経済の再生はありえない。」（「社説 成長・財政両立の新たな道筋を示めせ」『日本経済新聞』11月20日）

経済学者の反応はどうだっただろうか。まず、アベノミクスに賛成してきたクルーグマンは次のように述べている。

「日本がデフレ状態から完全に脱却していないことは明らかだ。その状態から脱するには『脱出速度』に達しないといけない。今優先すべきことは、脱デフレのためになんでもやることであるが、消費税増税以外の政策はその点で正しい。サプライズ追加緩和でアクセルをまた踏んだが、消費税増税第2弾を実施すれば、その推進力は相殺されてしまう。」（ポール・クルーグマン「日本経済は、世界の良きモデルになる」『ブレジデント』12月号）

それに対して、わが国の経済学者やエコノミストの反応はどうであっただろうか。筆者のみるところ、「予定どおり2015年10月に再び10%へと消費税率を引き上げれば、デフレからの脱却を目指したアベノミクスは完全に瓦解する可能性が高い」

として「増税を延期し、アベノミクスを再機動せよ」と主張するアベノミクス擁護派の片岡剛士氏など少数のエコノミストを除けば、大方の経済学者は増税の先送りに対して批判的な立場をとっている。たとえば、日本の代表的マクロ経済学者である吉川洋氏は次のように述べている。

「来年10月に予定していた再増税を先延ばしすべきではなかった。景気は大事だが、消費増税は社会保障の安定という長期的な課題に対処するために必要なことで、短期的な景気とは別に考えるべきだった。米格付け会社は日本国債の格付けを下げた。それに右往左往する必要はないが、延期したことで財政再建の道が遠のいたことは否定できない。」（『日本経済新聞』2014年12月3日）

日本の代表的な新古典派財政学者である井堀利宏氏もほぼ同様に次のように述べている。

「増税を先送りすれば、当面の景気対策には有効かもしれないが、財政健全化にはマイナスである。……わが国のように、好況期でも高いGDP成長率が望めない場合は、むしろ、景気動向とは独立して、着実に財政再建を進めるべきである。」（『エコノミスト』2014年12月2日号）

たしかに、2014年度末の国と地方の長期債務残高は1千兆円（GDPの約2倍）を超え、OECDの調査による債務残高の

国際比較（対GDP比）を見ても日本の財政状況が最悪の水準にあることが一目でわかる。しかしだからと言ってデフレから完全に脱却しきれていない状況下で、「景気動向とは独立して、着実に財政再建を進める」のが果たして正しい態度と言えるだろうか。

そ れを判断するにあたっては、今日の空前の国債累積と財政赤字が何に由来するかをまず突き止める必要がある。

筆者は、その最大の淵源は1990年代初頭のバブル崩壊後の長期に及ぶデフレ不況による大幅な税収減にあると考えている。1990年のG7の国々の国及び地方の債務残高の対GDP比を見ると、日本は64・6%で、イギリス、ドイツ、フランスよりは大きいものの、アメリカの66・6%、イタリアの97・2%、カナダの75・1%よりは小さい。それが2000年になると、イタリアの110・5%よりも大きい123・4%となり、以後その債務残高はますます大きくなり、現在では200%を超す債務残高を抱えることになる。このようなバブル崩壊以降の債務残高の対GDP比率急増の最大の原因は、15年におよぶデフレの影響によって名目成長率がきわめて低かったことに求められる。このように名目成長率が低いと税収は決して伸びることはない。実際に、国の一般会計の税収は1990年度の60・1兆円をピークにして、以後

消費増税延期

どんどん低下し、2012年度は44・2兆円にまで落ち込んだ。このような税収の低下傾向のもとで、高齢化にともなう社会保障費の増大と不況対策のための度重なる減税と公共事業などをはじめとした経費の増大があれば、毎年赤字が拡大し（2002年～2007年を例外として）、国債残高がうなぎ上りに上昇するのは何ら不思議ではない。

他方で、社会保障費や公共事業などの経費増大と減税による毎年の赤字拡大が、バブル崩壊後の不況を比較的軽微なものにとどめたという事実も決して見逃すべきではない。1980年代後半の日本のバブルは1920年代のアメリカのバブルよりもはるかに大きかった。アメリカではバブル破たん後に経験した不況は大恐慌に発展し、前例にない深刻な恐慌が生じたのに対して、日本ではバブル崩壊後の長期の不況下においても1%近い実質成長率を維持したのである。アメリカでは当初、需要拡大に役立つような財政政策はまったくとられなかったのに対して（たとえば、1932年という大恐慌のどん底の年に「平時では史上最大」といわれる大増税を実行した）、日本では財政出動が繰り返し行われ、それが需要の増大に役立った。また、預金保険制度や社会保障制度の存在が、需要を支える機能を果たした。

こ のように財政は日本の社会と経済の崩壊を食い止めるうえで大きな貢献をしたが、その分財政は大きく傷ついたのである。それゆえ、財政の立て直しもきわめて長期の計画のもとに経済と社会の状況を考慮しながらなされなければならない。

しかし、国民の大多数は気が遠くなるような国債残高に不安を当然抱くだろうし、金融利益を代表するムードイーズのような格付け会社をはじめとして、その不安を煽るような組織や人は後を絶たないだろう。

政治リーダーは国民のこのような不安を鎮め、国民の前向きなエネルギーを伸びやかに引き出す義務があるが、財政学者もまたできるだけ広い視野で経済と財政を冷静に分析することによってそのような不安を鎮める役割を果たすべきである。広い視野でもって現在の状況を把握するうえで、財政や経済についてのケインズの著作や、そして「健全財政は完全雇用をはじめとした公共目的を達成するうえで有用ではない」とするアッバ・ラーナーの古典的著作を現在の新しい文脈で読み直すことも有益である、と筆者は考えている（詳細については、岡本英男「福祉国家と機能的財政―ラーナーとレイの議論の考察を通じて―」『東京経大学会誌 経済学』283号、2014年12月、を参照せよ）。

本学沿革史 展示コーナー について

進一層館の正面入口から中に入ると、左前方、1階フロアの奥に、本学沿革史コーナー「大倉喜八郎と東京経済大学のあゆみ」が設置されている。東京経済大学史料委員会が企画立案したものである。このコーナーは、進一層館竣工日（2014年10月18日）の前日に完成することになった。1900（明治33）年の大倉商業学校の創立から今日までの本学の沿革・変遷を展望した展示施設が、初めて実現したことになる。

（史料室 永山和彦）



一・沿革史展示コーナー

進一層館は旧図書館を改装したものであり、旧館の特徴が継承されている。この特徴は改装にあたって一層際立つことになった。その特徴の一つは、当館の周囲壁面が大きな窓ガラスでできている点であり、二つ目は、天井の高さが4m余りあり柱は一本も使われておらず、一階のフロアが単一の大きな空間になっている点である。そのため館内からは、武蔵野の自然が広く大きく見渡せるのである。

これは外光が存分に館内に入り、自然光による明るさが大きな館内空間を満たすことを意味する。しかし、この特徴は、古い展示物を展示することには適さない。この点は、美術館や博物館、郷土史料館、他大学の沿革展示施設を思い浮かべていただければ了解されることであろう。

この明るく大きな単一の空間の中で沿革史の展示空間を、何処に、如何に、実現するかが大きな課題であった。それは、一階フロアの南東部分に、高さ二・七mの壁を、東西4m、南北12mで建て、その壁の中に展示に相応しい落ち着いた空間を作り、外光の問題を和らげることによって解決したのである。

こうして、一階フロア空間全体の単一性と明るい開放感を損なわずに展示コーナーをその一面に設置することになったのである。壁の内部はこげ茶色で統一、創立以来一十四年がたつ本学の歴史の重みを表し、壁の外側は白を基調とし、北向きの壁に創立当時の大倉商業学校の校舎の写真をはり、出入口となる西向きの壁には大倉翁の立像と建学の理念を象徴する狂歌直筆をはめ込んである。

正直に言えば、壁に囲い込まれた展示空間は、本学の歴史を展示するには窮屈過ぎるが、壁面内部全体に沿革関連写真を展開し、要所々々にパネルを嵌め込み、展示ケースを壁面と一体化することによって、狭隘さの緩和、壁の安定化を実現した。

二・展示の構成

展示内部に入ると、正面にヒストリ



大倉商業・大倉商時代
授業時間を知らせた鐘

1ウオールが立ち、内部壁面を使って六つのコーナーが設けられ、各コーナー毎にそのテーマに対応したパネル、展示ケースが配置されている。本学が収蔵している沿革史資料には、江戸時代、明治時代のもの、終戦後の物資の貧しい時代の紙質の悪い印刷物などがあり、これらの実物を展示してしまうことは資料の劣化を一層進行させてし



大倉経済専門学校時代の学生服
右下は大倉喜八郎本寿のお祝いの際に制作された懐中時計



本学併設の短期大学部の授業で使用されていたタフライターの同型器

まうことになるので、展示物の多くはレプリカである。

ヒストリーウォールの正面には大倉喜八郎と三名の発起人（石黒忠恵、渡辺洪基、渋沢栄一）の肖像写真と解説があり、本学の略年表が掲示されている。裏面には、歴代の督長・主事・校長・学長及び理事・理事長の顔写真と解説が掲示されている。そして、赤坂葵町の大倉商業学校校地に響いた授業時間を告げる鐘の実物が吊り下げられている。

六つのコーナーのテーマは、次のように設定されている。

①大倉喜八郎の人物像、②大倉の業績、③大倉商業学校、大倉高等商業学校のあゆみ、④新制大学として出発、

⑤大学、たゆまぬ発展、⑥二一世紀をむかえて

六つのコーナーには、パネル二枚、パネル内に収めた写真三六点、展示ケース内の展示品三七点が配置されている。ヒストリーウォールには大倉、発起人の写真四点、裏面には歴代校長・学長、理事・理事長の写真三六点、壁面に拡大写真二四点が使用され、本学一一四年の歴史が表現されている。

三、展示品

幾つか展示品を紹介する。ヒストリーウォールに吊り下げられている大倉商業学校時代に授業時間等を知らせた鐘は、一部破損しているが今なお立派に鳴り響く。大倉の蒐集品の一つで、

外側にはラテン語で「神にのみ栄光あれ1739」とある。

コーナー1には、大倉編『鶴乃とも』（レプリカ）が展示されている。大倉の喜寿を祝う政・財・文化界、中国名士の和歌・狂歌・漢詩・画・書等を載せた豪華本で、狂歌史上で装丁の最も美しい歌集とされている。大倉は十代初めから狂歌を江戸の雑誌に投稿し、掲載されている。江戸後期、大倉二〇歳前後に刊行された『扶桑名所名物集』（全十九巻）には、大倉の狂歌が多数採録されていることは同コーナーのパネルにも記されているとおりである。

コーナー3には、大倉米寿のお祝いの際に制作された時計が展示されている。時計本体はスイス製、カバーは日本人職人製である。裏面に「米寿、金婚、記念、鶴彦（鶴は絵で表現）、大正一三年十月」と刻まれている。同年（一九二四年）十月二〇日～二三日の四日間、帝国劇場にて大倉喜八郎の米寿・金婚の宴が盛大に開かれ、加藤高明首相、清浦圭吾、高橋是清等元首相、内外朝野の貴紳淑女三千余名が集まった。二四日には大倉高等商業学校で米寿記念祝賀会が行われた。

コーナー4には、新制大学設立早々に使用されたガリ版印刷の教科書が展示されている。渡辺輝雄教授著『経

済学概論』（レプリカ）で、三分冊、二百頁をこえる力作である。渡辺教授は後に学長となっている。なお、既述の時計とガリ版印刷の教科書は、小日向允氏（昭和三〇年卒）より寄贈されたものである。

コーナー5には、五日市憲法草案（レプリカ）が展示されている。五日市（現あきる野市）の豪農・深沢家の土蔵から発見された私擬憲法である。全国的な自由民権運動のたかまりの中で一八八一（明治十四）年に千葉卓三郎（五日市観能学校教師）が中心になってとりまとめた草案である。色川大吉（本学教授）ゼミが、一九六八（昭和四三）年に発見し、二〇〇八年まで本学が保管していた。あきる野市の要望により、同市に移管、東京都有形重要文化財である。

紙面の都合で他の展示品紹介は省略する。限られた空間の展示コーナーには展示できない沿革史関連資料が整理・未整理を含めて本学には多数所蔵されている。今後とも沿革史関連資料の収集と整理を進めていく予定である。そして、近い将来、現コーナーの模様替え、あるいは沿革史展示室・展示館といった本学により相応しい沿革史施設の飛躍的拡充、発展の実現を望みたい。

大倉学芸振興会芸術公演

佐野成宏 テノールリサイタル

2014年10月25日(土)、本学卒業生のテノール歌手佐野成宏氏（'87年経営学部卒業）によるリサイタルを開催しました。300名の聴衆が、情熱的な歌声に聞き入りました。



エベレスト登頂を目指す学生への 支援のお願い

本学経営学部1年生の伊藤 伴さん（18歳）が、2015年4月から2か月かけて、世界最高峰のエベレスト（8,848メートル）の登頂を目指します。成功すれば日本人最年少のエベレスト登頂記録となります。エベレストへは公募登山で挑む予定ですが、費用の個人負担は約800万円です。これまで本人がアルバイトや親族・友人の支援で約300万円を準備しましたが、費用全額を個人で用意するのは、困難な状況です。大学としても学生の世界的なチャレンジを支援することとし、その一つとして広く皆様に資金のご支援をお願いすることといたしました。また、個人、企業等からのご寄付の他、スポンサー契約のご支援も可能であれば、

ご検討をお願いしたいと存じます。
この度の支援にご理解を賜り、下記によりご協力いただきますようお願い申し上げます。

2014年12月8日
学校法人東京経済大学 理事長
岩本 繁
東京経済大学 学 長
堺 憲一



エベレスト登山支援寄付の詳細は
本学ホームページ「お知らせ」をご覧ください。

募集期間：2014年12月8日～2015年3月16日

免税措置が受けられますので、着金後、領収書、免税関係の書類をご送付いたします。

寄付金の扱い：寄付金につきましては、全額、伊藤 伴さんに渡します。なお、寄付金総額が今回の必要経費を上回った場合、資金不足等で今回の公募登山に参加できなかった場合、また、天候や体調の理由で登頂できなかった場合、いずれも寄付金のご返金はいたしません。

経営学部50周年・同大学院 経営学研究科30周年 記念シンポジウム



本学経営学部は1964年に開設され今年50周年、同大学院経営学研究科は1984年に開設され、今年で30周年を迎えました。

本学はこれを記念して、2014年11月8日(土)「大倉喜八郎 進一層館」ホールで「少子高齢化時代への企業イノベーション—明日への経営戦略・マーケティング戦略を探る—」をテーマにシンポジウムを開催しました。

パネリストをスーパー、食品卸売業、日用品製造・販売の大手3社から招き、現在の課題と今後の経営戦略、マーケティング戦略について語りあいました。

★ 最難関国家試験 合格速報

【公認会計士試験（平成26年度）】

在学生6名が公認会計士試験に合格！

経営学部4年生2名、経営学部3年生3名、
経済学部3年生1名

合格者のうち5名は、会計プロフェッショナル生

【税理士試験（平成26年度）】

**在学生12名が科目合格を果たし、
科目数ではのべ15科目に合格。**

経済学部5名、経営学部7名、
合格者全員が会計プロフェッショナル生

東京経済大学に御寄付いただいた方々の御芳名

みなさまより多くの御寄付をいただきました。ここに御寄付を賜りました方々の御芳名を掲載し、深甚の謝意を表します。
御厚志は、東京経済大学の教育・研究活動のより一層の充実のために有効に活用させていただきます。
今後とも、本学発展のために御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年1月

学校法人 東京経済大学 理事長 岩本 繁
東京経済大学 学長 堺 憲一

個人情報保護のためWEB掲載は控えさせていただきます。